

もりのみ教室はこんな場所

もりのみ教室は、2・3歳児のお子さまを対象とした就園前の「社会（集団生活）へ踏み出す場」、保護者の方々にとっては「子育て支援の場であり、情報交換の場」でありたいと考えております。子どもというカワイイつぼみが大きく花ひらく一助を…。

♪ 社会性を育む一助を…♪

社会に一步踏み出すと『ぼく（わたし）だけ』の世界から、『ぼく（わたし）と誰か』、『みんなとぼく（わたし）』の世界に変わっていきます。

ぼく（わたし）を中心に生活がまわってきた世界の住人の人たちが集う訳です。

想像してみてください。例えば、今まではお母さんの膝の上に乗って『自分のためだけに読んでもらっていた絵本』から『お友だちの後頭部（頭）が邪魔をする、みんなが見ている絵本』に変わります。これを子どもはどう感じ・どう受け止めていくのでしょうか。

子ども同士の関わりはもちろん、あそびの中や生活の中で、少しずつ社会性を身につけていけるように過ごしていきます。

♪ 心情を育む一助を…♪

『ひとは生まれながらにして、自らの力で育とうとする力をもっている』

子どもは『小さく、力がなく、大人の支援なしには育つことができない弱いひと』と考えた瞬間から、ひととしての心情、自立への歩みも止まってしまう。

あそびの中でも、生活の中でも、子どもが『やろう（やってみよう）』と思っている時に、大人がついつい手を出したくなる場面もあると思いますが、そこで『信じて待つ』ということも大切にしていきます。

隣の子と比べたって、隣の子と同じように何かをしたって、我が子が育つ訳ではありませんよ。『ぼく（わたし）は、ぼく（わたし）として、ぼく（わたし）らしく育ちたい』と願っているはず。

♪ 表現すること…♪

心情を育む一助とともに、『ありのままに表現すること』が大切です。

1～2歳の子どもたちは『ありのまま＝本能』で生きるひとたちです。1～2歳の子どもたちが、人の気持ちを察したり、使っているものを譲ったり、誰かに優しくするなんていうのは、育ち・発達のプロセスからすると違和感のあることです。

もりのみ教室では、あそびの中でも、造形の中でも、人と関わる中でも、そのひとの『ありのままの表現』を大切に受け止めていきたいと考えます。

表現にも個人差があります。『できる、できない』、『じょうず、じょうずでない』と判断し、評価するのではなく、保護者の方々とともに、一人ひとりの表現を、喜び合い、認め合い、支え合い、子どもたちと一緒に大人も育ち合える『共育（きょういく・ともぞだち）』の場と、もりのみ教室をしていきたいと考えています。

♪ みんなの目標♪

『みんなで楽しく、みんなで成長』を目標に、年間24回のもりのみ教室の時間を大切に、より良い充実がはかれるよう取り組んでまいります。

保護者の皆さまも、一緒に楽しんでください。

☆運営：学校法人慶泉学園

さくらようちえん
けいせんようちえん